

第3回舞鶴市廃棄物減量等推進審議会

摘録

【日時】平成29年2月23日（木） 午後1時30分～午後3時30分

【場所】市役所別館6階 大会議室

【出席委員】青山委員、足立委員、内海委員、尾上委員、木谷委員、品田委員、
田中委員、谷口委員、西山委員、藤原委員
(12名中10名出席：有効に成立)

【事務局】市民文化環境部長 飯尾、環境対策室長 平野、生活環境課長 福田、
清掃事務所長 本合、リサイクル事務所長 橋本、生活環境課主幹 田中

【傍聴者】0人

1. 開会

2. 議題

(1) 舞鶴市のごみ収集やごみステーションに関する市民意識調査の結果について

- ・平成27年度に行ったごみ収集やごみステーションに関する市民意識調査の結果について、京都府立大学の勝山准教授より次の4つのポイントに重点を置いた報告があった。

①高齢者への配慮（主な回答内容）

- ・80歳以上のごみ出し負担感は大きい。
- ・ごみ出し困難な世帯への望ましい支援（①一部自己負担（行政支援あり）25%、②地域支援23%、③行政負担15%。①の自己負担は100～200円）

②立ち番制度（主な回答内容）

- ・約60%で負担感。10年後の継続は47%で困難と回答。

③リサイクルプラザへの直接持ち込み（主な回答内容）

- ・主にリサイクルプラザへの直接搬入を利用しているのは30%。

④自治会非加入者のごみ出し

- ・主にリサイクルプラザへの直接搬入を利用しているのは30%。
- ・加入率は92%と比較的高い。

【委員の意見】

- ・高齢化率の高い地域に住んでいるが、住民は高齢になっても体が動くうちは立ち番をするという意識が強い。一方で、10年後を考えると現状のまま続けていく難しさも感じている。
- ・全体的に高齢者に絞った調査になっているが、他にも子育てや共働きなど、色々な事情で立ち番が大変な世代がいると思う。
- ・子育てや共働きの世代に対して事業者も自治会も柔軟に対応できるようになれば、若い人が立ち番をはじめとした自治会の活動に参加しやすくなるのではないかな。

- ・ごみの問題を解決することで、従来ある舞鶴らしいコミュニティを維持することができるならば、この問題を意識的にコントロールするのはとても大事なことだと思う。

(2) 自治会長を対象とした「ごみ収集に係るアンケート結果」について

- ・平成27年1月に実施された自治会長向けのごみ収集に係るアンケートの結果について、京都府立大学の勝山准教授より報告があった。

【委員の意見】

- ・自治会長以外に民生委員にも聞き取りを行えば、より正確なごみ出しの実情が把握できるのではないか。
- ・アンケート内容をふまえた自治会長との意見交換会の出席者はほとんど男性であり、一般적으로ごみ出しに関わる機会の多い女性の意見はどうなのかが気になった。

(3) ごみ収集に係る他市の取り組み事例について

- ・他市のごみ収集に関する取り組み事例について、京都府立大学の勝山准教授より紹介があった。

【委員の意見】

- ・紹介事例の他に、自分たちのコミュニティを「ごみニティ」と呼び、自発的にごみ収集の問題について考え、意識を持って取り組んでいる人々がいる。また、色々な分野のお金を地域にひとまとめで渡して、地域はそれを受けて自分たちに必要なことをやっていくという仕組みで活動している人々もいる。そういった事例も参考にしてほしい。
- ・舞鶴市でも市全体の一つの大きなキャンペーンとして、市民が本気でごみ問題について考えるためのきっかけ作りが必要なのではないか。

【まとめ】

次の4つの項目で意見の整理を行うこととし、次回以降で議論を行うこととする。

①分別の問題

リサイクルシステムや何を資源とするか。

②立ち番の問題

高齢化の問題と併せて、制度を今後どのように見直すか。

③排出困難者の問題

高齢の他、様々な事情による排出困難の問題。

④人材育成とコミュニティの問題

コミュニティをどうするのか、意識をどのように高めるか。その仕組みと仕掛けについて。